

# 資源評価対象魚種の拡大に伴う予備調査

(資源評価調査)

寺門弘悦・吉田太輔・安原 豪・谷口祐介

## 1. 研究目的

資源評価対象魚種の拡大に伴い、本県沿岸で漁獲される主要な水産資源の適切な保全と、合理的かつ持続的利用を図るための提言を行うため、科学的評価に必要な統計データや生物学的情報の収集を行う。

## 2. 研究方法

2020（令和2）年度から日本海ブロックの資源評価の対象となった13種（ヒレグロ、クロダイ、ハツメ、クロソイ、キツネメバル、チダイ、ケガニ、モロトゲアカエビ、トゲザコエビ、クロザコエビ、キアンコウ、キジハタおよびシイラ）について、島根県漁獲管理情報処理システムから出力した漁獲統計資料または産地市場の販売データから魚種別漁獲量の集計を行った。また、類似種との混合が考えられる魚種について、産地市場での販売実態を確認した。

## 3. 研究結果

### (1) 漁獲状況調査

ヒレグロ、クロダイ、ハツメ、クロソイ、キツネメバル、チダイ、ケガニ、モロトゲアカエビ、トゲザコエビ、クロザコエビ、キアンコウ、キジハタおよびシイラについて2019年の漁業種類別漁獲量を集計した。ただし、うち6種（クロダイ、ハツメ、クロソイ、キツネメバル、ケガニおよびキアンコウ）には類似種が混じっている可能性が考えられるため、産地市場での販売実態を確認する必要があることがわかった。また、クロザコエビ、トゲザコエビについては市場での品名は「ザコエビ」だけであり、水揚げ実態から確認する必要がある。

図1に2019年の魚種別漁獲量を示した。キアンコウはアンコウとの混じりがあるため「アンコウ類」とした。トゲザコエビとクロザコエビは「ザコエビ」で括るため実質12種となる。アンコウ類は597トン、シイラは391トン、ヒレグロは239トン、チダイは132トン、キジハタは28トン、クロダイは12トン、その他の魚種は10トン未満であった。

### (2) 産地市場での販売実態調査

県西部の浜田市場において沖合底びき網漁業で漁獲されたアンコウ類（アンコウ、キアンコウ）の販売形態を確認したところ、ラウンド（魚体そのまま）または切り身の状態で販売されていた。また、大田市場の小型底びき網漁業で漁獲されたアンコウ類でも切り身を表すような品名が確認された。両種の正確な漁獲状況を把握するためには、切り身の状態の両種を判別する必要があり、その判別技術の検討が必要である。

## 4. 研究成果

調査結果は（国研）水産研究・教育機構 水産資源研究所に送付した。ヒレグロ、ハツメ、チダイ、トゲザコエビ、クロザコエビ、キジハタおよびシイラは「令和2（2020）年度 資源評価調査報告書」として、クロダイおよびキアンコウは「令和2（2020）年度 新規拡充魚種作業状況報告書」として魚種別に取りまとめられて公表された。

なお、クロソイ、モロトゲアカエビ、キツネメバルおよびケガニは、日本海ブロック全体に占める本県の漁獲量が少ないことや分布状況が勘案された結果、本県による当該種の取りまとめは不要となった。

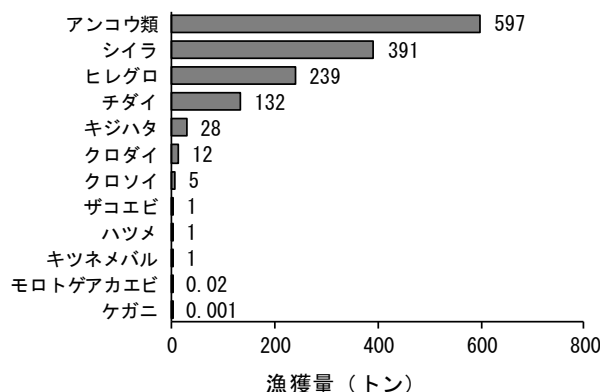


図1 2020年度日本海ブロックの新たな資源評価対象種の2019年の漁獲状況